

K O R G   D I G I T A L   P I A N O

# CONCERT

コルグ デジタル・ピアノ コンサート

## 取扱説明書

# C-330

DB LC

# KORG

このたびはC-330をお買い上げいただきありがとうございます。

本製品を末永くご愛用いただくためにもこの取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。

## 安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

### マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

**WARNING:**  
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには

### 図記号の例

	△ 記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ 記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

### 以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。

デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。

小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。

## 警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます



- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。  
感電やショート恐れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。



- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
  - 電源コードやプラグが破損したとき
  - 異物が内部に入ったとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、サービス・センターへ依頼してください。



- 本製品を分解したり改造したりしない。



- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。

- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものを乗せない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



- 雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。

- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。



- 濡れた手で本製品を使用しない。

# ⚠️ 注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- ⚠️ 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ⚠️ ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。  
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。  
本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- ⚠️ 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ⚠️ 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。
- ⚠️ 本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。
- 🔌 電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていませんので、製品を使用しないときは電源プラグをコンセントから外してください。
- 🚫 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。  
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- 🚫 スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。  
故障の原因になります。
- 🚫 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。
- 🚫 不安定な場所に置かない。  
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- 🚫 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。  
本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。
- 🚫 地震時は本製品に近づかない。
- 🚫 本製品に前後方向から無理な力を加えない。  
本製品が転倒する危険性があります。
- 🚫 キー・カバーまたは譜面立ての開閉時は、指や手を挟まないようにする。

## 付属のスタンドについて

- ⚠️ 取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方法」に従って確実に設置する。  
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

## 付属のイスについて

- ⚠️ ピアノの演奏用にのみ使用する。  
イスで遊んだり、イスを踏み台等に使用すると、転倒してお客様がけがをしたり、イスが壊れる恐れがあります。
- 🚫 2人以上で腰掛けない。  
付属のイスは1人用です。


## 取扱説明書の表記について

### スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[ ]で括弧しています。

( P. ): 参照ページを表します。

: 使用時の注意を表します。

 MeMO: 使用時のヒントなどの内容を表します。

### 演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

- \* MIDIは社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
- \* 掲載されている会社名、製品名、規格名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

# 目次

おもな特長 .....	5	MIDI .....	27
演奏するための準備 .....	6	MIDI (ミディ)とは? .....	27
演奏を始める前に .....	6	MIDIの接続方法 .....	27
ヘッドホンを使う .....	7	MIDIチャンネル .....	27
譜面立てを使う .....	7	マルチティンバー音源として使う .....	27
自動演奏		ローカルオン/オフの設定 .....	28
(音色デモ)を聴いてみましょう ....	8	プログラムチェンジ .....	28
音色デモを聴く .....	8	資料 .....	29
弾いてみましょう .....	10	故障とお思いになる前に .....	29
音色を選ぶ .....	10	仕様 .....	29
音色の明るさをかえる(ブリリアンス) .....	10	スタンドの組み立て方法 .....	30
音色に残響を加える(リバーブ) .....	10	ピアノ・ソング・リスト .....	32
ペダルを使う .....	11	鍵盤の機能一覧表 .....	34
メトロノームを使う .....	12	MIDIインプリメンテーション・チャート .....	35
自動演奏			
(ピアノ・ソング)を活用しよう ....	14		
ピアノ・ソングを聴く .....	14		
ピアノ・ソングに合わせて弾いてみる .....	17		
ピアノ・ソングを使った練習 .....	18		
いろいろな			
機能を使ってみましょう .....	22		
2つの音色を重ねて演奏する(レイヤー機能) ..	22		
鍵盤のタッチ感を変える .....	23		
キーを変更する(トランスポーズ機能) .....	23		
音の高さを微調整する .....	24		
音律を選ぶ .....	24		
設定を記憶する .....	25		
工場出荷時の設定に戻す .....	25		
ピアノ1に戻す .....	25		
OUTPUT端子の使い方 .....	26		

# おもな特長

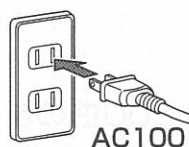
- **グランド・ピアノのようなタッチ感**  
低音部は重めで高音部は軽めといった、グランド・ピアノのように音域によって鍵盤の重量感を再現し、演奏者のタッチを損なわない連打性能を実現したRH3 (リアル・ウェイトド・ハンマー・アクション3) 鍵盤を採用しています。
- **多彩な音色** ..... (p.10、22)  
コンサートグランド・ピアノ音色をはじめとした、コルグ独自の高品位な8種類の音色が選択できます。レイヤー機能で、同時に2つの音色を組み合わせた演奏も可能です。また、ステレオ・サンプリング音源を搭載していますので、コンサートグランド・ピアノの豊かな表現力だけでなく、心地よい広がりのある響きが楽しめます。
- **合計200曲の自動演奏を収録** ..... (p.8、14)  
各音色の特長を生かしたデモ演奏やクラシック、バイエル、ブルグミュラー、ポップスのピアノ・ソングの自動演奏を合計200曲も内蔵しています。
- **ピアノ・ソングを使ったレッスン機能** ..... (p.17)  
名曲集1、2やバイエル、ブルグミュラーのピアノ・ソングは右手、左手のパートの片方を消音して、消音したパートを自分で弾いて練習することができます。また、ピアノ・ソングは早送りや巻き戻し、リピート再生などの機能を使って、任意の位置から自由に練習できます。
- **エフェクト機能** ..... (p.10)  
音色の明るさを3種類の中から選択できるブリリアンスと、豊かな響きを与えるリバーブの2つのデジタル・エフェクトを搭載しています。
- **ペダル効果** ..... (p.11)  
アコースティック・ピアノと同様に3つのペダルがあり、それぞれ、ダンパー、ソステヌート、ソフトの効果が得られます。ダンパー・ペダルは、アコースティック・ピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果を再現します。ダンパー・ペダルとソフト・ペダルは、ペダルを踏む深さで効果のかけ方を調整できます (ハーフ・ペダル機能)。
- **メトロノーム機能** ..... (p.12)  
拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベル音を使用できるメトロノームを内蔵しています。
- **タッチ・コントロール機能** ..... (p.23)  
ピアノで一番大切な鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、3種類の中から選ぶことができます。
- **音程の調節** ..... (p.23、24)  
他の楽器や曲にキー (調) が合わせられないとき、トランスポーズ機能により簡単にキーを変更 (移調) して演奏することができます。また、ピッチ・コントロール機能により音程の微調整もこなうことができます。
- **音律** ..... (p.24)  
平均律の他に、2種類の古典音律 (キルンベルガー、ヴェルクマイスター) を選択することによって、古典音楽などの再現も可能になります。
- **接続端子** ..... (p.26、p.27)  
オーディオ機器や他のMIDI機器などと接続してレッスンや楽しさを広げるOUTPUT、MIDI端子を装備しています。
- **ヘッドホン・フック** ..... (p.7)  
レッスン用ヘッドホンの置き場所に便利なヘッドホン・フックを装備しています。

# 演奏するための準備

## 演奏を始める前に

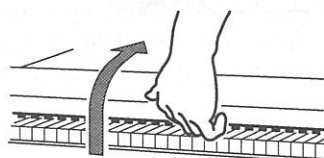
### ■ 電源コードの接続

電源コードのコネクターを、本体底面のAC INソケットに差し込みます (☞ p.31)。次に電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。  
必ずAC100Vの電源コンセントに、差し込んでください。



### ■ キー・カバーを開ける

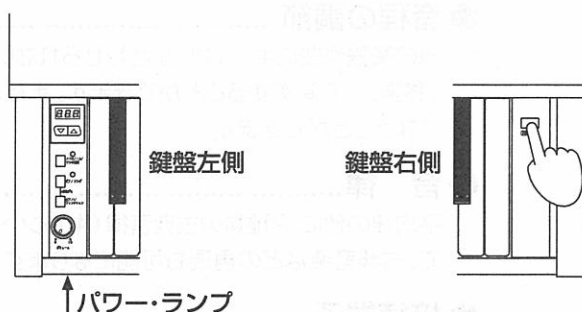
キー・カバーを開けるときは、キー・カバーの手前のへりの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに奥の方へスライドさせます。  
キー・カバーを閉めるときは、へりの中央部分を軽く持ち、前方へスライドさせます。



- ⚠ キー・カバーの開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。
- ⚠ 無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になります。
- ⚠ キー・カバーの開閉時は、キー・カバーの上に紙やコインなどがいないことを確認してください。本体の中に入り込み、故障の原因になります。

### ■ 電源をオンにする

鍵盤の右側にある[POWER]スイッチを押してオンにします。  
鍵盤の左側にあるパワー・ランプが点灯します。



オフにするときは、もう一度[POWER]スイッチを押してください。  
正面左側にあるパワー・ランプが消灯します。

- ⚠ 電源をオフにすると、「設定を記憶する」 (☞ p.25) で変更した設定以外は全て工場出荷時の設定に戻ります。

## ■ 音量を調節する

[ボリューム]ツマミを回して音量を調整します。

本体のスピーカーとヘッドホン端子から出力される音量をコントロールします。音量を小さくするときには左側へ、大きくするときには右側へツマミを回します。[ボリューム]ツマミが“0”の位置では音は出ません。



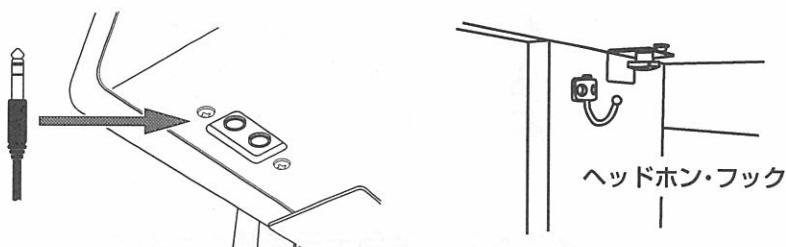
 [ボリューム]ツマミは“0”の位置から徐々に音量を上げてください。

## ヘッドホンを使う


ヘッドホンを差し込むと 本機のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときなどにヘッドホンをお使いください。


ヘッドホン端子は2つありますので、2人で演奏を楽しむことができます。

本体底面の左手前側にあるヘッドホン端子に、ステレオ・ヘッドホンのプラグ（標準プラグ）を差し込みます。



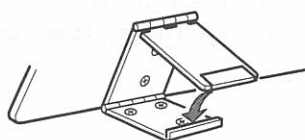
ヘッドホンを使用しないときは、スタンドの側板（左）の内側にあるフックに引っ掛けて収納することができます。

 「ミニ→標準」の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、プラグの抜き差しは変換プラグを持って行ってください。

 ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

## 譜面立てを使う

譜面立てを起こし、裏面にある2つのストッパーを使って、倒れないように固定します。



# 自動演奏（音色デモ）を聴いてみましょう

本機には、高品位な8種類の音色を使った音色デモが8曲と、ピアノ音色を使い、馴染みのあるピアノ曲などをあつかったピアノ・ソングが192曲入っています。ここでは、その中から音色デモ8曲を聴いて、豊かな音色とその表現力を確認してください。


**MeMO** 音色デモ以外のピアノ・ソング192曲には、演奏に合わせて指使いを練習できるバイエル、ブルクミュラーや、演奏を聞きながら練習に使える名曲集、ポップスのソング集があります。ピアノ・ソングを演奏するには、14ページ「自動演奏（ピアノ・ソング）を活用しよう」をご覧ください。

## 音色デモを聴く




### 音色デモ一覧

No.	音色	曲名	作者
1	ピアノ1	革命のエチュード	F.ショパン
2	ピアノ2	Reflection	M. テンピア
3	E.ピアノ1	Three Hands	H.ミナミ
4	E.ピアノ2	All The Ones You Don't Know	M. テンピア
5	ハーブシコード	イタリア協奏曲	J.S.バッハ
6	P.オルガン	フーガト短調	J.S.バッハ
7	E.オルガン	Cool"B"	M. テンピア
8	ストリングス	G線上のアリア	J.S.バッハ

 音色デモの演奏中に鍵盤を弾いて、その音を出すことはできますが、音色を変えることはできません。

 音色デモの演奏中はリバーブの設定を変えることはできません。

 音色デモはテンポを変えることができません。

### ■すべての音色デモを聴くときは

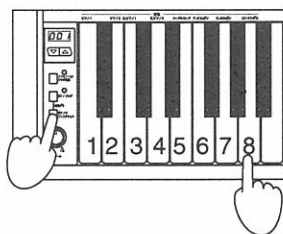
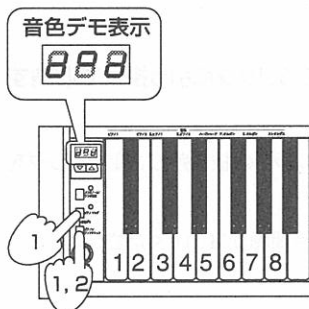
1. [ピアノ・ソング]スイッチと[ピアノ1/ファンクション]スイッチを同時に押します。  
マルチ・ディスプレイが、音色デモの表示になります

そのまま約5秒経過すると、音色デモのNo.1から順番に演奏を開始します。音色デモのNo.8の演奏が終わると、再び音色デモのNo.1に戻り演奏を続けます。

2. 演奏を止めるときは[ピアノ・ソング]スイッチを押します。  
演奏が止まり、通常の演奏ができる状態に戻ります。

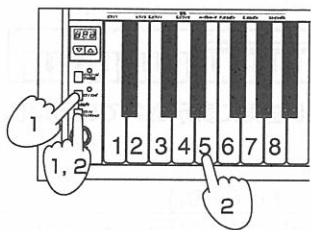
音色デモ演奏中に、他の音色デモに切りかえるときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、そのデモ・ソングが割り当てられている音色の鍵盤を押してください。

たとえば、音色デモのNo.1を演奏中にNo.8に切りかえるときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、「ストリングス」の鍵盤A1を押してください。音色デモの演奏は、No.8に切り替わり順番に演奏を続けます。





## ■ 聴きたい音色デモを聴くときは



1. [ピアノ・ソング] スイッチと、[ピアノ1/ファンクション] スイッチを同時に押し、手を離します。

マルチ・ディスプレイが、音色デモの表示になります。

2. [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、聴きたい曲が割り当てられている音色の鍵盤 (A0からA1) を押します。

選んだ音色デモの演奏を開始します。

曲を選ばないまま約5秒経過すると、前項「すべての音色デモを演奏するときは」の動作になります。

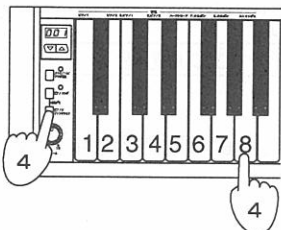
3. 選んだ音色デモの演奏が終わると、次の曲へ順番に繰り返し演奏されます。

4. 音色デモ演奏中に、他の音色デモに切り替えるときは、[ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、そのデモ・ソングが割り当てられている音色の鍵盤 (A0からA1) を押してください。

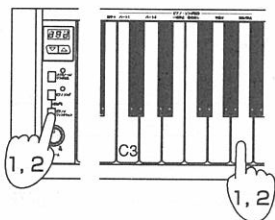
たとえば、音色デモのNo.1を演奏中にNo.8に切り替えるときは、[ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、「ストリングス」の鍵盤A1を押してください。音色デモの演奏は、No.8に切り替わり順番に演奏を続けます。

5. 演奏を止めるときは [ピアノ・ソング] スイッチを押します。

音色デモの演奏が止まり、通常の演奏ができる状態に戻ります。



## ■ 演奏中の音色デモを先頭から聴き直すときは



1. 演奏中に [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら “再生/停止” (白鍵A3) を押すと演奏を停止します。

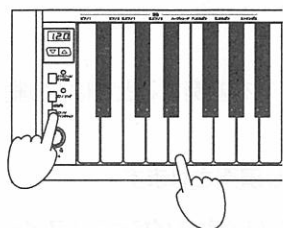
2. もう一度 [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら “再生/停止” (白鍵A3) を押すとその曲の最初から演奏します。

# 弾いてみましょう

## 音色を選ぶ



- [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、本体パネル左側に表示されている音色の鍵盤(白鍵A0からA1)を押してください。



ピアノ1	臨場感あふれる最高峰のグランドピアノの音
ピアノ2	ジャンルを問わずオールマイティに弾けるグランドピアノの音
E.ピアノ1(エレクトリック・ピアノ1)	軽やかで透明感のあるエレクトリックピアノの音
E.ピアノ2(エレクトリック・ピアノ2)	アタック感があって切れの良いエレクトリックピアノの音
ハーブシコード	クラシックな趣きのあるリアルなハーブシコードの音
P.オルガン(パイプ・オルガン)	荘厳なパイプオルガンの音
E.オルガン(エレクトリック・オルガン)	ファンキーでポップなオルガンの音
ストリングス	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音

### 例: 音色にストリングスを選ぶ

[ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら“ストリングス”(白鍵A1)を押します。音色がストリングスにかかります。

## 音色の明るさをかえる (ブリリアンス)



- [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているブリリアンスの鍵盤(白鍵D5からF5)を押します。

設定をかえるとマルチ・ディスプレイに現在の設定が表示されます。

メロー (D5)	明るさを抑えた落ち着いた音色	
ノーマル (E5)	標準の音色	
ブライト (F5)	明るめの音色	

**MeMO** この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、25ページ「設定を記憶する」を参照してください。

## 音色に残響を加える (リバーブ)



音に残響と深みを加え、コンサートホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。これをリバーブ効果といいます。

- [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているリバーブの鍵盤(G5からB5)を押します。

設定をかえるとマルチ・ディスプレイに現在の設定が表示されます。

L (G5)	浅いリバーブ効果	
M (A5)	標準のリバーブ効果	
H (B5)	深いリバーブ効果	
オフ (F#5)	リバーブ効果なし	

リバーブをオフにするときは、[ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、リバーブ・オフの鍵盤(F#5)を押します。

**注意** ピアノ1、2、E.ピアノ1の音色では、アコースティックピアノの弦の響きをシミュレートしているためリバーブをオフにしても、わずかにリバーブ効果が残ります。

**MeMO** この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、25ページ「設定を記憶する」を参照してください。

## ペダルを使う

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類の機能をもったペダルがあります。これらの機能を使って演奏をより効果的に表現することができます。

### ダンパー・ペダル

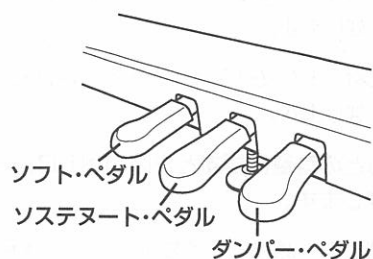
ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます（ハーフ・ペダル効果）。

### ソステヌート・ペダル

任意の音に対してのみダンパー効果をかけます。ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音に対してはダンパー効果はかかりません。

### ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで音のやわらかさを変化させることができます（ハーフ・ペダル効果）。



## メトロノームを使う



テンポに合わせて演奏するときは、メトロノームを使うと便利です。



### ■ メトロノームを鳴らすときは

1. [メトロノーム]スイッチを押すと、メトロノームがスタートします。  
[メトロノーム]スイッチのランプがテンポに合わせて点滅します。
2. メトロノームをストップするときは、もう一度[メトロノーム]スイッチを押します。  
[メトロノーム]スイッチのランプが消灯します。

### ■ メトロノームの音量を調整するときは

1. [メトロノーム]スイッチを押すと、メトロノームがスタートします。  
[メトロノーム]スイッチのランプがテンポに合わせて点滅します。
2. [メトロノーム]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されている音量-/+の鍵盤(白鍵C6、D6)を押して、音量を調整します。  
マルチ・ディスプレイにメトロノームの音量1~13(工場出荷時は10)が表示されます。  
[メトロノーム]スイッチを押しながら“音量+”の鍵盤(D6)を繰り返し押すと、音量が大きくなります。  
[メトロノーム]スイッチを押しながら“音量-”の鍵盤(C6)を繰り返し押すと、音量が小さくなります。
3. もとの音量に戻すときは、[メトロノーム]スイッチを押しながら鍵盤(C6、D6)を同時に押します。

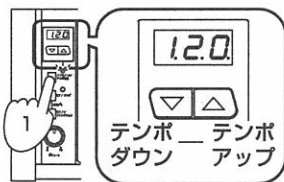
**MeMO** この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、25ページ「設定を記憶する」を参照してください。

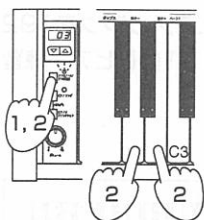
### ■ テンポを設定するときは

1. [メトロノーム]スイッチを押します。  
[メトロノーム]スイッチのランプがテンポに合わせて点滅し、マルチ・ディスプレイにテンポが表示されます。  
**MeMO** テンポ表示のときはマルチ・ディスプレイのドットが3つとも点灯します。
2. [▲]、[▼]スイッチで、テンポを調整してください。  
テンポがマルチ・ディスプレイに表示されます。  
長押ししている間は連続して値を調整できます。  
設定できる範囲は、♩=40~240です。

**MeMO** マルチ・ディスプレイがテンポ表示のときは、[▲]、[▼]スイッチだけでメトロノーム音を出さずに調節することができます。

**MeMO** [メトロノーム]スイッチを押しながら、鍵盤のB3~G#4を押すことで、直接数値入力することもできます(※p.34)。



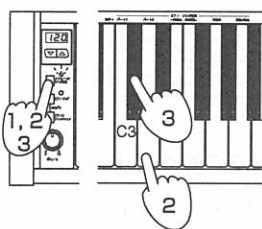


## ■ 拍子を設定するときは

電源をオンにした直後に[メトロノーム]スイッチを押したときは、拍子は4拍子で設定されていますが、弱拍のみになります。

1. [メトロノーム]スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。  
[メトロノーム]スイッチのランプがテンポに合わせて点滅します。
2. [メトロノーム]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されている“拍子-/+”の鍵盤(A2、B2)を押します。  
拍子+(B2)を押す度に、2拍子、3拍子、4拍子、6拍子と拍子が変わります。  
また、拍子-(A2)を押す度に6拍子、4拍子、3拍子、2拍子と逆方向に設定が変わります。  
このときマルチ・ディスプレイには02、03、04、06と拍子が表示されます。

現在の拍子のまま弱拍のみの設定にするとときは、[メトロノーム]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されている“パート1”の鍵盤(C3)を押します。



## ■ 強拍をベルの音にするときは

電源をオンにした直後に[メトロノーム]スイッチを押したときは、メトロノームは弱拍のみの設定になっています。また、前項「拍子を設定するときは」で拍子を選んだときは、一拍目が強拍になりますが、この一拍目の音をベル音にかえることができます。

1. [メトロノーム]スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。  
[メトロノーム]スイッチのランプがテンポに合わせて点滅します。
2. [メトロノーム]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されている“パート2”の鍵盤(D3)を押します。  
一拍目がベルの音になります。
3. ベルの音を通常の音に戻すときは、[メトロノーム]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されている“パート1”と“パート2”の間の黒い鍵盤(C#3)を押します。  
一拍目が通常の音に戻ります。

**MeMO** 拍子を設定した時にベル音にする設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、25ページ「設定を記憶する」を参照してください。

# 自動演奏(ピアノ・ソング)を活用しよう

演奏を聞きながら練習に使える名曲集、バイエル、ブルクミュラー、ポップスのピアノ・ソングを192曲内蔵しています。このピアノ・ソングのうちバイエル、ブルクミュラーの計131曲はピアノ練習曲として活用しやすいようにメトロノームも同時に使うことができます。

## ピアノ・ソングを聴く



ピアノ・ソングは名曲集1、2、バイエル、ブルクミュラー、ポップスの5つのグループに分けて収録されています。それぞれのグループは割り当てられている5つの鍵盤(C2からG2)で選ぶことができます。


### ピアノ・ソング一覧


グループ	鍵盤	曲数	備考
名曲集1	C2	32	パート練習可、楽譜同梱(非売品)
名曲集2	D2	13	パート練習可
バイエル	E2	106	パート練習可、メトロノーム使用可
ブルクミュラー	F2	25	パート練習可、メトロノーム使用可
ポップス	G2	16	テンポ変更不可

それぞれのグループ内の曲名は、32ページ「ピアノ・ソング・リスト」をご覧ください。

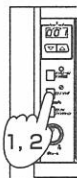
**MeMO** ピアノ・ソング(ポップスを除く)は、左右のパートを分けて再生することができます。


**MeMO** ピアノ・ソングの演奏中に鍵盤を弾くとピアノ音色で演奏できます。

 [ピアノ・ソング]スイッチのランプが点灯しているときは、はりパーブの設定を変えることはできません。

 名曲集1、2、ポップスはメトロノームを使用できません。また、ポップスのテンポは変更できません。

### ■ ピアノ・ソングを続けて演奏するときは



 バイエルのソング・グループは演奏されません。

#### 1. [ピアノ・ソング]スイッチを押します。

[ピアノ・ソング]スイッチのランプが点灯します。

そのまま約5秒経過すると、名曲集1のグループの1曲目から順番に演奏を開始します。

ポップスの16曲目の演奏が終わると、再び名曲集1のグループの先頭の曲に戻り演奏を続けます。

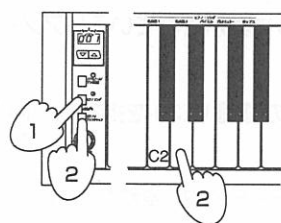
#### 2. 演奏をやめるときは[ピアノ・ソング]スイッチを押します。

[ピアノ・ソング]スイッチのランプが消灯し、通常の演奏ができる状態に戻ります。

ピアノ・ソングの演奏中に、他のグループに切りかえるときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、そのグループが割り当てられている鍵盤を押してください。

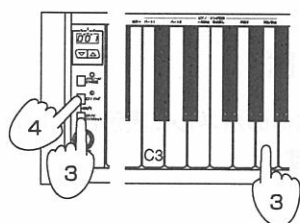
たとえば、名曲集1のグループを演奏中にポップスのグループに切りかえるときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら「ポップス」の鍵盤(G2)を押してください。[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の「再生/停止」の鍵盤(A3)を押すと、表示された曲Noから順番に演奏を続け、次項「グループ単位でのピアノ・ソングを演奏するときは」の動作になります。

## ■ グループ単位でのピアノ・ソングを演奏するときは



1. [ピアノ・ソング]スイッチを押します。  
[ピアノ・ソング]スイッチのランプが点灯します。

グループを選ばないまま約5秒経過すると、前項「ピアノ・ソングを続けて演奏するときは」の動作になります。

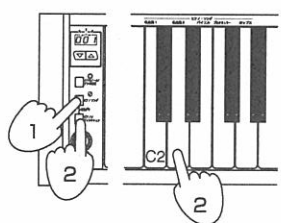


2. [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、聴きたいグループが割り当てられている鍵盤(C2からG2)のうち1つを押します。

3. [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“再生/停止”の鍵盤(A3)を押すと、演奏が始まります。  
グループの先頭の曲から最後の曲までを順番に繰り返し演奏します。  
マルチ・ディスプレイの表示は小節数(または、カウンター値)になります。

4. 演奏をやめるときは[ピアノ・ソング]スイッチを押します。  
[ピアノ・ソング]スイッチのランプが消灯し、通常の演奏ができる状態に戻ります。

## ■ 聴きたいピアノ・ソングを演奏するときは



1. [ピアノ・ソング]スイッチを押します。  
[ピアノ・ソング]スイッチのランプが点灯します。

グループを選ばないまま約5秒経過すると、前々項「ピアノ・ソングを続けて演奏するときは」の動作になります。

2. [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、聴きたい曲が含まれるグループが割り当てられている鍵盤(C2からG2)のうち1つを押します。

3. [▲]、[▼]スイッチを押し、点滅しているマルチ・ディスプレイで聴きたい曲の番号を選びます。  
曲名、および番号は32ページ「ピアノ・ソング・リスト」をご覧ください。

**MeMO** [▲]、[▼]スイッチを同時に押すと、選んだグループの先頭の曲を選ぶことができます。

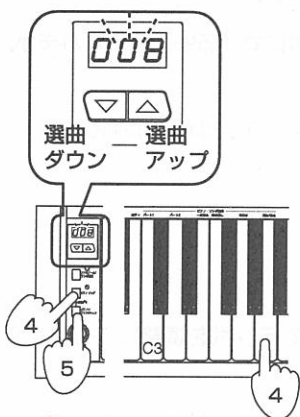
4. [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“再生/停止”の鍵盤(A3)を押すと演奏が始まります。  
マルチ・ディスプレイの表示は小節数(または、カウンター表示)になります。  
選んだ曲の演奏が終わると、次の曲へ順番に繰り返し演奏されグループの最後の曲が終わると先頭の曲に戻り繰り返し演奏されます。

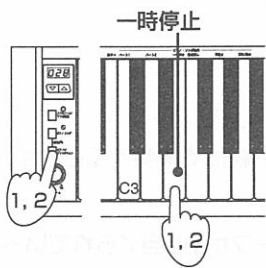
**MeMO** 1曲のみを繰り返し演奏するときは、その曲の演奏中に[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら3本ペダルの左のソフト・ペダルを踏んでリピート再生にします([ピアノ・ソング]スイッチのランプ点滅)。

リピート再生を止めるときは[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、“一時停止”の鍵盤(E3)または、“再生/停止”の鍵盤(A3)を押します([ピアノ・ソング]スイッチのランプ点灯)。

5. 演奏をやめるときは[ピアノ・ソング]スイッチを押します。  
[ピアノ・ソング]スイッチのランプが消灯し、通常の演奏ができる状態に戻ります。

**MeMO** 演奏中に他の曲に切りかえるときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、聴きたい曲が含まれるグループが割り当てられている鍵盤(C2からG2)のうち1つを押します。マルチ・ディスプレイが曲番号の点滅にか変わったことを確認し、操作3.以降を行います。

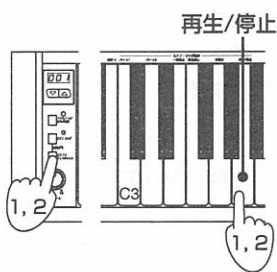




## ■ ピアノ・ソング演奏を一時停止するときは

1. [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“一時停止”の鍵盤(E3)を押します。
2. [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、“一時停止”の鍵盤(E3)を押すと一時停止したところから演奏を再開します。

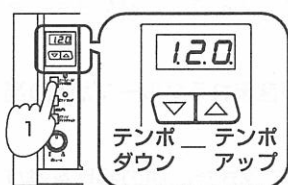
**MeMO** [ピアノ・ソング]スイッチを押しながら、3本ペダルの中央のソステヌート・ペダルを踏むことで、一時停止したり、停止したところから演奏を再開することができます。



## ■ 演奏中のピアノ・ソングを先頭から聴き直すときは

1. 演奏中に[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“再生/停止”の鍵盤(A3)を押します。  
このとき、[ピアノ・ソング]スイッチのランプはまだ点灯中です。
2. もう一度[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、“再生/停止”の鍵盤(A3)を押すとその曲の最初から演奏します。

**MeMO** [ピアノ・ソング]スイッチを押しながら、3本ペダルの中央のソステヌート・ペダルを踏むことで、再生することができます。ただし、先頭にもどすことはできません。



## ■ ピアノ・ソングのテンポを変えるときは

ピアノ・ソングはテンポが変えられます。

**!** ポップスのピアノ・ソングはテンポを変えられません。

1. [メトロノーム]スイッチを押します。  
バイエル、ブルクミュラーのときは、マルチ・ディスプレイにオリジナルのテンポが表示され、[メトロノーム]スイッチが点滅します。  
名曲集1、2のときは、マルチ・ディスプレイにオリジナルのテンポに対する%が表示され、[メトロノーム]スイッチは消灯のままです。

**MeMO** テンポ表示のときはマルチ・ディスプレイのドットが3つ、%表示のときは1つ点灯します。

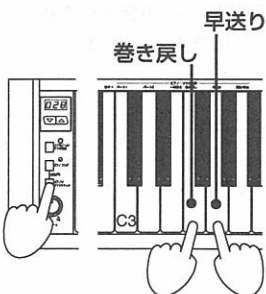
2. [▲]、[▼]スイッチを押し、テンポを調整してください。  
テンポ、または%がマルチ・ディスプレイに表示されます。  
スイッチを押している間は連続して値が変わります。  
設定できる範囲は、オリジナルの-50%~+50%までです。

デモ曲は、それぞれでテンポが設定されていますので、1つの曲でテンポを調整しても曲が変わると、その曲のオリジナルのテンポになります。

**MeMO** テンポをかえた後で、オリジナルのテンポに戻すときは、テンポ、または%がマルチ・ディスプレイに表示されているときに[▲]、[▼]スイッチを同時に押してください。また、電源をオフにしたり、他のピアノ・ソングを選んだときもオリジナルのテンポに戻ります。

**MeMO** メトロノームの音を出さずにテンポを変えるときは、[メトロノーム]スイッチを長押し(1秒以上)してマルチ・ディスプレイの表示をテンポにし、[▲]、[▼]スイッチを押してテンポを調整してください。

**MeMO** バイエル、ブルクミュラーのときは、[メトロノーム]スイッチを押しながら、鍵盤のB3~G#4を押すことで、直接数値入力することもできます(※p.34)。



## ■ ピアノ・ソングの早送り、巻き戻し

- 演奏中または一時停止のときに[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“早送り”の鍵盤(G3)を押している間、3倍速で再生します。

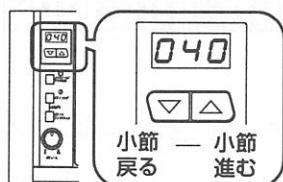
また、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“巻き戻し”の鍵盤(F3)を押している間、3倍速で逆再生します。



マルチ・ディスプレイには、現在再生中の小節位置（バイエル、ブルクミュラー、ポップスの1～15曲目）、または曲の先頭からの位置を示すカウンター値（名曲集1、2、ポップスの16曲目）が表示されます。

**MeMO** [ピアノ・ソング]スイッチを押しながら、3本ペダルの左のソフト・ペダルを踏むことで巻き戻し、右のダンパー・ペダルを踏むことで早送りを行うこともできます。

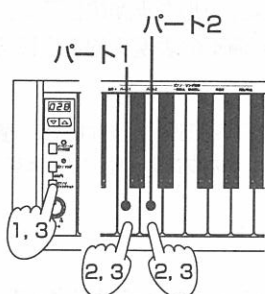
## ■ 小節移動



- 演奏中または一時停止のときなどに、マルチ・ディスプレイに小節位置が表示されている場合は、[▲]、[▼]スイッチを押して小節間の移動ができます。  
このときに、[▲]、[▼]スイッチを同時に押すと先頭の小節(001)に移動できます。

**MeMO** マルチ・ディスプレイに曲の先頭からの位置を示すカウンター値が表示される名曲集1、2とポップスの16曲目のピアノ・ソングのときは、カウンター値の移動になります。

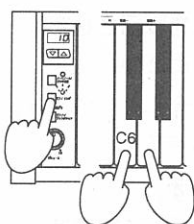
## ピアノ・ソングに合わせて弾いてみる



### ■ 右手と左手を別々に演奏するときは

ピアノ・ソング（ポップスを除く）は、右手または左手のパートのどちらかをデモ演奏させ、もう一方のパートを消音して自分で演奏することができます。

1. 「聴きたいピアノ・ソングを演奏するときは」の手順で演奏を始めます。
2. 左手のパートを消音するときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“パート1”の鍵盤（C3）を押します。右手のパートを消音するときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“パート2”の鍵盤（D3）を押します。曲に合わせて演奏してください。
3. パートの消音を解除するときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、消音しているパートの鍵盤（パート1はC3、パート2はD3）を押します。



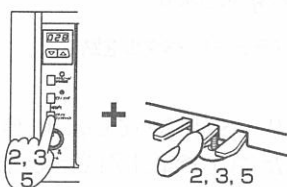
- 消音したパートの演奏を確認しながら弾いてみる時は、消音パートの音量を調整します。消音するパートを選んだ後、[ピアノ・ソング]スイッチを押しながら“音量+”の鍵盤（D6）を押すと、音量が大きくなります。また、[ピアノ・ソング]スイッチを押しながら“音量-”の鍵盤（C6）を押すと、音量が小さくなります。このとき、マルチ・ディスプレイに0（消音）から12まで音量が表示されます。また、この音量設定は右手、左手のどちらのパートでも共通になります。

**⚡** 電源をオンにしたときの消音したパートの音量設定は、0（消音）になります。

### ■ 任意の位置を指定して繰り返し演奏するときは（ABリピート機能）

ピアノ・ソングの演奏の開始位置と終了位置を指定し、その区間を繰り返し演奏することができます。

1. 「聴きたいピアノ・ソングを演奏するときは」の手順で演奏を始めます。
2. 演奏中に、繰り返し演奏を開始する位置になったとき、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、3本ペダルの中央のソステヌート・ペダルを踏み、開始位置を指定します。
3. そのまま演奏を続け、繰り返し演奏を終了する位置になったとき、もう一度[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、ソステヌート・ペダルを踏み、終了位置を指定します。
4. 自動的に2.で設定した開始位置に戻り、指定した開始位置と終了位置の区間を、繰り返し演奏します。



開始位置の指定	A--
終了位置の指定	A-b
解除	---

5. 指定区間の演奏を解除するときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、ソステヌート・ペダルを踏みます。

[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“一時停止”(E3)、“巻き戻し”(F3)、“早送り”(G3)、“再生/停止”(A3)のいずれかの鍵盤を押して解除することもできます。

## ピアノ・ソングを使った練習



### ■ 練習曲について

バイエルとブルクミュラーは練習曲として便利のように、演奏時は市販の一般的な楽譜と本機のマルチ・ディスプレイの小節表示が合うようになっています。

これにより、楽譜を見たり、実際の演奏を聞いたりしながら練習することができます。

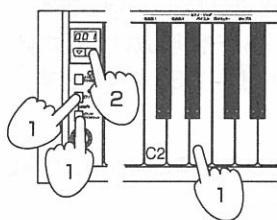
また、練習曲は、テンポを変えることができます。最初は弾けるテンポで練習を始め、だんだん指定のテンポまで早くするという練習を重ねることで、しっかりとした技術を身につけることができます。

**MeMO** バイエル、ブルクミュラーの練習曲は曲により2または、1小節分のカウント後、演奏が始まります。

名曲集1、名曲集2、ポップスは演奏のニュアンスを勉強できるように、コルグ専属のピアニストがリアルタイム録音しています。ある程度弾けるようになってから、演奏の表現の幅を広げるための一例として合わせて弾いてみると良いでしょう。

**MeMO** マルチ・ディスプレイの表示は、バイエル、ブルクミュラー、ポップスの1～15曲目ときは小節位置を、名曲集1、2、ポップスの16曲目のときは曲の先頭からの位置を示すカウンター値になります。

### ■ バイエル1番を練習してみましょう



1. [ピアノ・ソング]スイッチを押して、曲集のバイエル([ピアノ1/ファンクション]スイッチ、鍵盤E2を同時に押す)を選びます。

15ページ「聴きたいピアノ・ソングを演奏するときは」参照してください。

2. 点滅しているマルチ・ディスプレイの数字が“001”であることを確認します。他の数字の時は[▲]、[▼]スイッチで“001”を選んでください。

市販の一般的な楽譜とピアノ・ソングのバイエルの曲番号は同一です。

3. [メトロノーム]スイッチを押してマルチ・ディスプレイにテンポを表示させます。

16ページ「ピアノ・ソングのテンポを変えるときは」参照してください。

**MeMO** この時、メトロノームが鳴ります。不要な場合は、もう一度[メトロノーム]スイッチ押して音を消してください。ただし、マルチ・ディスプレイはテンポ表示のままです。

4. [▲]、[▼]スイッチで自分が演奏できそうなテンポを設定します。

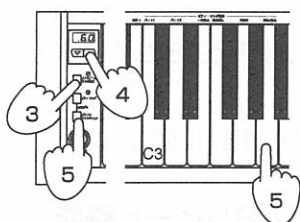
ここでは“60”にしてみましょう。拍子は自動的に選んだ曲の拍子になります。

5. [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“再生/停止”の鍵盤(A3)を押します。

テンポ“60”で2小節分(8カウント)のカウント後、曲の演奏が始まります。

**MeMO** [ピアノ・ソング]スイッチを押しながら、3本ペダルの中央のソステヌート・ペダルを踏むことで演奏を始めることができます。

バイエル1番には右手の演奏がパート2に、左手の演奏(伴奏)がパート1に入っています。伴奏が気になって練習しにくい場合は、パート2の演奏を消音してください(※p.17「右手と左手を別々に練習するときは」)。



## 繰り返し練習するときは

## ・ 少し巻き戻す

演奏中または一時停止のときに[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“巻き戻し”の鍵盤(F3)を押します。押し続けている間、3倍速で音を確認しながら巻き戻すことができます。

**MeMO** [ピアノ・ソング]スイッチを押しながら、3本ペダルの左のソフト・ペダルを踏むことで巻き戻しを行うこともできます。

## ・ 各小節の先頭に戻す

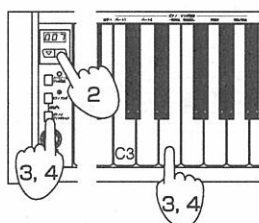
マルチ・ディスプレイに小節が表示されているときに[▲]、[▼]スイッチで先頭に戻す小節を設定します。一時停止している場合は[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、“一時停止”の鍵盤(E3)を押すと、その小節の頭からはじまります。

## ・ 任意の位置を繰り返し演奏する

17ページ「任意の位置を指定してリピート練習するときは」をご覧ください。

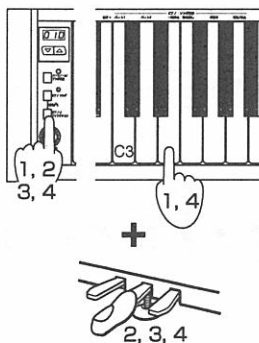
## バリエーション1の練習をやってみましょう

バイエル1番はバリエーション全て連続して演奏できるようになっています。各バリエーションの最初が何小節目になるかは最初から数えるか、計算して小節数を書いておくと便利です。バイエルの1番は次のページの楽譜のようになります。



1. マルチ・ディスプレイが小節になっていない場合は、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“一時停止”の鍵盤(E3)や、“早送り”の鍵盤(G3)などを押します。
2. バリエーション1の最初の小節の2小節前になるよう[▲]、[▼]スイッチで“007”にします。再生中の場合は一時停止にします。
3. [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、“一時停止”の鍵盤(E3)を押して演奏を再開します。2小節の演奏後に右手で演奏合わせて鍵盤を弾きます。
4. [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、“一時停止”の鍵盤(E3)を押して一時停止にします。小節を[▲]、[▼]スイッチで戻してまた練習します。

## 自動的にバリエーション1の区間をリピート練習しましょう。



1. 小節をバリエーション1の開始小節の少し前、例えば“008”にします。[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、“一時停止”の鍵盤(E3)を押して演奏を始めます。
2. 音を聞いて、マルチ・ディスプレイの小節表示が“009”になったところで[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、3本ペダルの中央のソステヌート・ペダルを踏みます。(リピート開始点の設定)
3. 音を聞いて、マルチ・ディスプレイの小節表示が“017”になったところで再び[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、ソステヌート・ペダルを踏みます。(リピート終点の設定)  
これでリピート開始点と終点を自動的に繰り返し演奏するようになりますので、合わせて何回も練習します。
4. リピートを解除したいときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、ソステヌート・ペダルを踏むか、“一時停止”(E3)、“巻き戻し”(F3)、“早送り”(G3)、“再生/停止”(A3)のいずれかの鍵盤を押します。

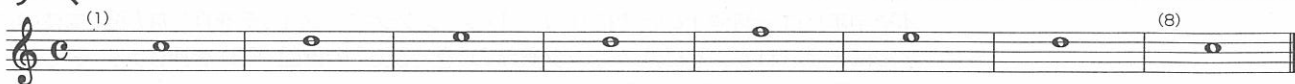
**MeMO** 練習中にお手本の音が気になる場合、音を消すことができます。17ページ「右手と左手を別々に演奏するときは」をご覧ください。

# バイエル1番

## テーマ

※( )はマルチ・ディスプレイに表示される小節

(1) (8)



## バリエーション1

(9) (16)



## バリエーション2

(17) (24)



## バリエーション3

(25) (32)




## バリエーション4

(33) (40)



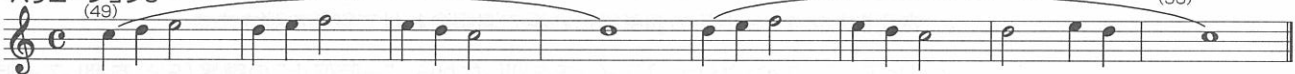
## バリエーション5

(41) (48)



## バリエーション6

(49) (56)



## バリエーション7

(57) (64)



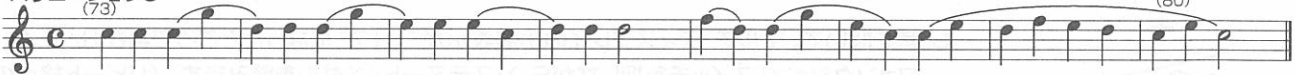
## バリエーション8

(65) (72)



## バリエーション9

(73) (80)




## バリエーション10

(81) (88)



## バリエーション11

(89) (96)



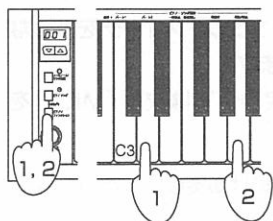
## バリエーション12

(97) (104)



## 伴奏に合わせて仕上げ

十分に練習できたら、伴奏に合わせて演奏してみましょう。



1. [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているピアノ・ソング操作の“パート2”の鍵盤(D3)を押して、お手本の音を消します。

17ページ「右手と左手を別々に演奏するときは」をご覧ください

2. 最初の小節“001”から [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、“再生/停止”の鍵盤(A3)を押して演奏開始します。

バイエル3番以降の曲では右手がパート2、左手がパート1に入っているの、それぞれ片手ずつ練習することができます。

単調になりがちな片手練習も反対の手のパートの演奏がはいっているので、飽きずに進めることができます。

また、うまく弾けないところはABリピート機能を使って何回も練習することで、だんだん弾けるようになります。

## ■ 名曲集1、名曲集2の練習(付属の楽譜は名曲集1に対応します)

ある程度弾けるようになってから、片手ずつ合わせて演奏してみましょう。

うまく弾けないところは、テンポを落として、ABリピート機能を使って練習し、徐々に速度を上げて弾いてみましょう。



メトロノームにあわせて練習することはできません。

# いろいろな機能を使ってみましょう

ここまで説明した操作以外に、[ピアノ1/ファンクション]や[ピアノ・ソング]スイッチを押しながら、ほかの機能が割り振られた鍵盤を押すことで各種の設定ができます。

なお、MIDIチャンネル、ローカル・コントロールなどのMIDI関係の設定については次項「MIDI」をご覧ください。

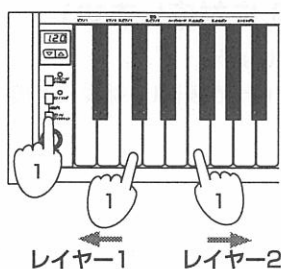


[ピアノ1/ファンクション]や[ピアノ・ソング]スイッチを押している時は演奏しないでください。予期せぬ設定になることがあります。

## 2つの音色を重ねて演奏する (レイヤー機能)



1つの鍵盤を弾いたときに、2つの音色(たとえば、ピアノ1とストリングス)を同時に鳴らして、演奏することができます。これをレイヤー機能といいます。



1. [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体パネル左側に表示されている音色の鍵盤(A0からA1)を2つ同時に押します。

選んだ2つの音色のうち、左側の音色をレイヤー1、右側の音色をレイヤー2といいます。

レイヤー時の同時発音数は、ピアノ2の音色を含んだ組み合わせのときには21音、その他の音色の組み合わせのときには16音になります。

2. レイヤー機能を解除するときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら音色の鍵盤(白鍵A0からA1)を1つ押します。

押した鍵盤の音色にかわります。

### ■ 2つの音色の音量バランスを変えるときは

選んだ2つの音色の音量バランスを調整することができます。

[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、本体パネルに表示されている“音量-/+”の鍵盤(C6、D6)を押して、音量のバランスを調整します。

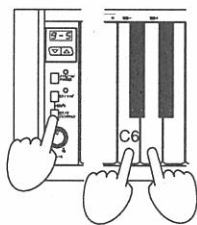
それぞれの音量は[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、“音量-”の鍵盤(C6)または“音量+”の鍵盤(D6)を押しているときに、マルチ・ディスプレイに表示されます。

#### レイヤー1

[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、“音量-”の鍵盤(C6)を繰り返し押すと、レイヤー1の音量バランスが大きくなります。

#### レイヤー2

[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、“音量+”の鍵盤(D6)を繰り返し押すと、レイヤー2の音量バランスが大きくなります。

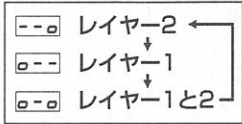
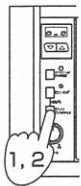


→ : [ピアノ1/ファンクション] + “音量-”の鍵盤(C6)

← : [ピアノ1/ファンクション] + “音量+”の鍵盤(D6)



**MeMO** この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、25ページ「設定を記憶する」を参照してください。



## ■ レイヤー機能時のペダルの設定

レイヤー機能時に、ダンパー・ペダル効果を加える音色を選ぶことができます。

1. [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、3本ペダルの向かって右のダンパー・ペダルを踏みます。

ダンパー・ペダルを踏むたびに、左図のように効果を加える音色が替わります。設定をかえるとマルチ・ディスプレイに現在の設定が表示されます。

2. 設定が終わったら、[ピアノ1/ファンクション] スイッチから手を離してください。

**MeMO** この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、25ページ「設定を記憶する」を参照してください。

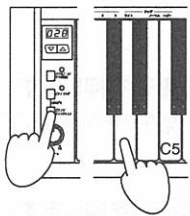
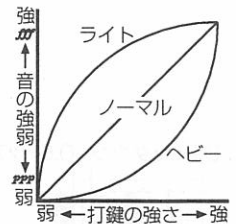
## 鍵盤のタッチ感を変える



鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これをタッチ・コントロール機能といいます。

電源をオンにしたときは、普通（標準）のタッチになります。

- [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、本体パネルに表示されているタッチの“ライト”、“ノーマル”、“ヘビー”の鍵盤(A4からC5) 1つを押してタッチ感を選びます(右図参照)。設定をかえるとマルチ・ディスプレイに現在の設定が表示されます。



ライト (A4)	軽め(弱く弾いても強音が出せるタッチ)	---
ノーマル (B4)	標準(普通のピアノ・タッチ)	---
ヘビー (C5)	重め(強く弾かないと強音が出せないタッチ)	---

## キーを変更する (トランスポーズ機能)



キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。

11半音の範囲で設定することができます。

1. [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、本体パネルに表示されているトランスポーズの鍵盤(F#6からB6、C#7からF7) 1つを押します。

押さえた鍵の音の高さがC7の鍵盤の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。

2. もとの設定に戻すときは、[ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、C7の鍵盤を押します。

または電源をオンにし直しても、もとの設定に戻ります。

## ■ 曲の調子を半音上げて演奏するときは

Cの鍵を押さえたときにC#の音が鳴るようにします。

- [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながらC#7の鍵盤を押します。半音上げたときに下図の左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。

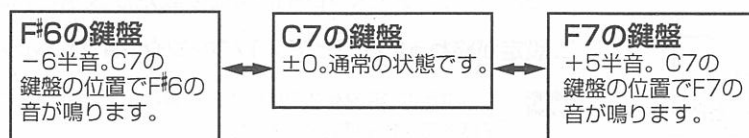


いろいろな機能を使ってみましょう

## ■ キーがB $\flat$ の曲を、Gの指使いに直して演奏するとき

B $\flat$ の音は、Gの音から見て短3度の(3半音高い)音にあたります。したがって、C7の鍵盤を押したときにC7よりも3半音高いD $\sharp$ 7の音が出るようにします。

○ [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながらD $\sharp$ 7の鍵盤を押します。

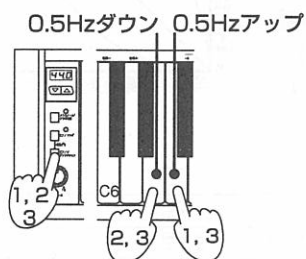


## 音の高さを微調整する



ピッチ(音の高さ)の微調整を行いません。

他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。  
±12.5Hz(427.5Hz~452.5Hz)までずらすことができます。



1. ピッチを上げるときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら鍵盤F6を押します。  
一回押すたびに約0.5Hzずつピッチが高くなり、マルチ・ディスプレイに現在のピッチの下3桁が表示されます。
2. ピッチを下げるときは[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら鍵盤E6を押します。  
一回押すたびに約0.5Hzずつピッチが低くなり、マルチ・ディスプレイに現在のピッチの下3桁が表示されます。
3. もとのピッチに戻すときは[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら鍵盤E6とF6を同時に押します。  
もとのピッチ(A4=440Hz)に戻り、マルチ・ディスプレイに40.0が表示されます。

**MeMO** この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、25ページ「設定を記憶する」を参照してください。

## 音律を選ぶ

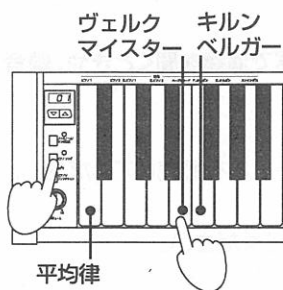


音律が選択できます。

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、キルンベルガーとヴェルクマイスターという古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律の3種類の音律が選択できます。

- **ヴェルクマイスター**  
ドイツ人のオルガニストで音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターⅢスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由的な移調を目的として考案されたものです。
- **キルンベルガー**  
18世紀初めに、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーⅢスケールです。これは主にハープシコードのチューニングに使用されます。
- **平均律**  
現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。





## ■ 音律を変更するときは

- [ピアノ・ソング] スイッチを押しながら鍵盤E1 (ヴェルクマイスター)、または鍵盤F1 (キルンベルガー) を押します。  
このとき、マルチ・ディスプレイに現在の設定 (ヴェルクマイスターは01、キルンベルガーは02) が表示されます。

## ■ 平均律に戻すときは

- [ピアノ・ソング] スイッチを押しながら鍵盤A0 (平均律) を押します。  
このとき、マルチ・ディスプレイに現在の設定 (00) が表示されます。

**MeMO** 電源をオフにすると、平均律に戻ります。

**MeMO** ピアノ1、ピアノ2の音色では、ストレッチ・チューニングを用いています。ストレッチ・チューニングは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。

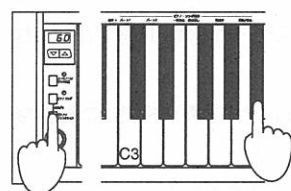
## 設定を記憶する



今までいろいろな設定を紹介してきましたが、以下の設定は電源をオフにしても本機内に記憶することができます。


一度の操作で、これらの現在の設定が記憶されます。

- ・ ブリリアンス効果  
音色ごと (レイヤー時は音色の組み合わせごと)
- ・ リバース効果  
音色ごと (レイヤー時は音色の組み合わせごと)
- ・ レイヤーの音量  
音色の組み合わせごと
- ・ レイヤー時のペダル設定  
音色の組み合わせごと
- ・ ピッチの微調整
- ・ メトロノームの音量
- ・ メトロノームの強拍の音色
- [ピアノ1/ファンクション] スイッチを押しながら、本体パネルに表示されているピアノ・ソング操作の“再生/停止”の隣、黒鍵A#3を押します。



## 工場出荷時の設定に戻す


音色を選んでいろいろな設定を記憶したあとで、工場出荷時 (購入時) の設定に戻りたいときは以下の操作を行ってください。

 工場出荷時の設定に戻してもよいかどうかを確認してから操作を行ってください。

1. 電源をオフにします。
2. 鍵盤のC8 (一番高いドの音) を押しながら電源をオンにします。  
工場出荷時の設定に戻ります。

## ピアノ1に戻す

[ピアノ1/ファンクション] スイッチを押すだけで、音色をピアノ1に戻すことができます。

 [ピアノ1/ファンクション] スイッチと共用になっています。各種の設定をしようとして、どこかの鍵盤も押さずに [ピアノ1/ファンクション] スイッチを離すとピアノ1の設定に戻りますのでご注意ください。

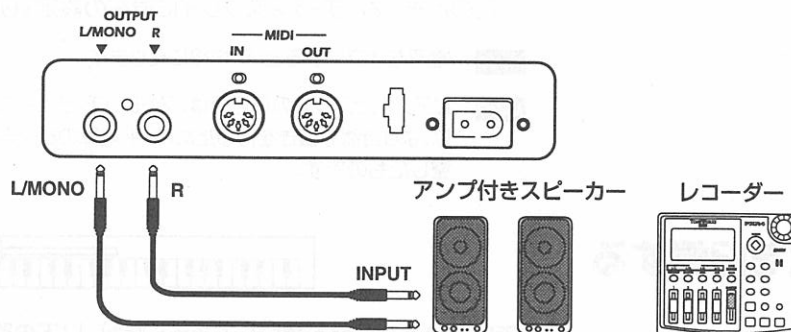
## OUTPUT 端子の使い方

本体底面のOUTPUT端子は、本機の内蔵スピーカー以外の音響機器で演奏を聞くとときや、録音機材に録音するときなどに使用します。


モノラル標準プラグのケーブルを使用します。


アンプ付きスピーカーや録音機器などのINPUT端子などに、ケーブルを接続してください。モノラルで接続するときは、L/MONO側に接続してください。

OUTPUT端子からの出力レベルは、[ボリューム]ツマミで調整してください。



**MEMO** 外部機器のスピーカーを使う場合、ヘッドホンを接続すると本機のスピーカーからは音が出なくなります。

 各接続は必ず電源をオフの状態で行ってください。不注意な操作を行うと、本機や接続した機器などを破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。

 接続するケーブルは別売品です。接続する機器に合わせて市販品をお求めください。

## MIDI (ミディ) とは?

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

本機を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えやダンパー・ペダルなどの効果を、一緒にコントロールできます。

また、他のMIDIキーボードやシーケンサー（自動演奏装置）から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすこともできます。複数のMIDI機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができます。

ここでは、本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。さらにMIDIに興味のある方は、わかりやすく説明した本も、数多く出版されていますので、ご利用ください。

## MIDIの接続方法

MIDI情報をやりとりするには、市販のMIDIケーブルを使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。

### MIDI IN 端子

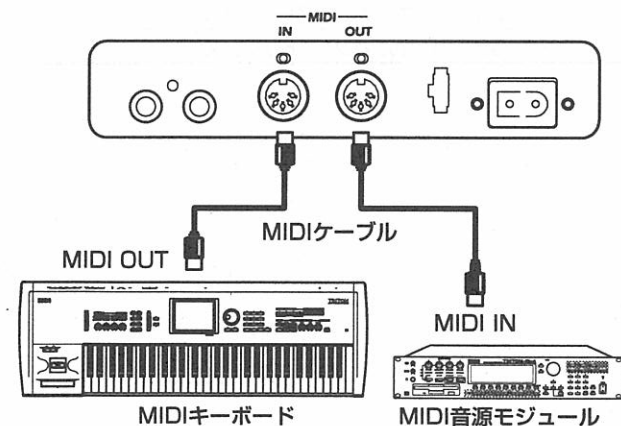
MIDI情報を受信します。

外部MIDI機器（MIDIキーボードやシーケンサーなど）で、本機の音を鳴らすなどのコントロールができます。本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子を、MIDIケーブルで接続します。

### MIDI OUT 端子

MIDI情報を送信します。

本機を弾いたときなどに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器をコントロールできます。本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子を、MIDIケーブルで接続します。



## MIDIチャンネル

接続が終わったら、本機と接続するMIDI機器のMIDIチャンネルを同じ番号に設定します。MIDIチャンネルには1～16があります。

電源をオンにした直後は、チャンネル1に設定されます。

○パート1のチャンネルを設定するときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、鍵盤A7を押します。また、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら、鍵盤G7を押すと、チャンネルの数値を少なくすることができます（※p.34「鍵盤の機能一覧表」）。

鍵盤を押している時に、マルチ・ディスプレイに設定したMIDIチャンネルが表示されます。

## マルチティンバー音源として使う

本機の電源を入れたときは、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パート・マルチティンバー音源として動作します。

1. 本機のMIDI INとシーケンサーなどのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。

2. 接続したシーケンサーなどからのMIDIデータを受信します。

接続するシーケンサーなどの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

演奏データと一緒にプログラムチェンジ・メッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。

マルチティンバー音源を解除するときは、[ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら鍵盤B7を押し、マルチ・ディスプレイに1Pと表示させます（※p.34「鍵盤の機能一覧表」）。

**MeMO** [ピアノ1/ファンクション]スイッチを押しながら鍵盤B7を押すたびに、ディスプレイに1P、16Pが繰り返し表示されます。ディスプレイに16Pと表示されているときはマルチティンバー音源として動作します。

**!** 本機のパネル上で選択している音色を、設定しているMIDIチャンネルのデータで鳴らすことはできません。同じ音色になるようにプログラムチェンジを送ってください。

## ローカルオン/オフの設定

本機の鍵盤を弾いたときに内蔵音源は鳴らさないでMIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合や、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合は、本機をローカルオフに設定します。

1. ローカルオフに設定するには、本機の電源を一度切ります。
2. 鍵盤の最低音の黒鍵A#0を押しながら電源をオンにします。これでローカルオフになります。
3. 電源をオフにすると、自動的にローカルオンに設定されます。

通常はローカルオンに設定し、鍵盤を弾いたときに本機の音が鳴るようにします。

## プログラムチェンジ

接続したMIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えたり、接続したMIDI機器から、本機のプログラム番号を切り替えます。

### プログラムチェンジの送信

接続した外部MIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えます。

- 音色スイッチで音色を選ぶと、次表のように00～35のMIDIプログラムチェンジナンバーを送信します。

### プログラムチェンジの受信

外部からプログラムチェンジナンバーを受信すると、次表のように、本機のマルチティンバーの音色が切り替わります。

本機は、00～35のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信したときに音色が切り替わります。外部MIDI機器より36以上のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信しても本機の音色は切り替わりません。

シングル	PC#	音色
	00	ピアノ1
	01	ピアノ2
	02	E.ピアノ1
	03	E.ピアノ2
	04	ハーブシコード
	05	P.オルガン
	06	E.オルガン
	07	ストリングス
レイヤー	PC#	音色 (レイヤー1、レイヤー2)
	08	ピアノ1、ピアノ2
	09	ピアノ1、E.ピアノ1
	10	ピアノ1、E.ピアノ2
	11	ピアノ1、ハーブシコード
	12	ピアノ1、P.オルガン
	13	ピアノ1、E.オルガン
	14	ピアノ1、ストリングス
	15	ピアノ2、E.ピアノ1
	16	ピアノ2、E.ピアノ2
	17	ピアノ2、ハーブシコード
	18	ピアノ2、P.オルガン
	19	ピアノ2、E.オルガン
	20	ピアノ2、ストリングス
	21	E.ピアノ1、E.ピアノ2
	22	E.ピアノ1、ハーブシコード
	23	E.ピアノ1、P.オルガン
	24	E.ピアノ1、E.オルガン
	25	E.ピアノ1、ストリングス
	26	E.ピアノ2、ハーブシコード
	27	E.ピアノ2、P.オルガン
	28	E.ピアノ2、E.オルガン
	29	E.ピアノ2、ストリングス
	30	ハーブシコード、P.オルガン
	31	ハーブシコード、E.オルガン
	32	ハーブシコード、ストリングス
	33	P.オルガン、E.オルガン
	34	P.オルガン、ストリングス
	35	E.オルガン、ストリングス

## 故障とお思いになる前に

## 電源が入らない

- 電源コードを本体に差し込んでいますか？
- 電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか？
- 電源スイッチがオンになっていますか？ (☞p.6)
- それでも電源が入らない場合は、電源コードをコンセントから抜いて、コルグ・サービス・センターにご相談ください。

## 音が出ない

- 本機の[ボリューム]ツマミが“0”になっていませんか？ (☞p.7)
- ヘッドホン端子にプラグが差し込まれていませんか？
- 選んでいるパートが演奏されるように設定していますか？ (☞p.17)
- ローカルオンになっていることを確認してください。 (☞p.28)

## 音が途切れてしまう

- 最大同時発音数を超えています。  
前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的に鳴らす仕組みになっているため、最大同時発音数を超えると音が切れてしまいます。  
ピアノ2の音色は、最大同時発音数が64音ですが、そのほかの音色は2つのデータを使用しているため、最大同時発音数が32音になります。  
ダンパーペダルを使用するとき、レイヤーにして2つの音色を鳴らすときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

## 特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- 本機のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようと加工してつくられています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

## ペダルの効果が正しくかからない

- ペダル用コネクタがはずれていませんか？ (☞p.31)
- レイヤー時に効果が得られないときは、もう一度設定をやり直してください。 (☞p.22)

## 送信したMIDIデータに外部機器が応答しない

- MIDIケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 (☞p.27)
- 受信機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを送信していることを確認してください。 (☞p.27)

## 仕様

鍵盤	88鍵(A0~C8)、RH3(リアル・ウェイテッド・ハンマー・アクション3)鍵盤
音色	8音色: ピアノ1、ピアノ2、エレクトリック・ピアノ1、エレクトリック・ピアノ2、ハーブシコード、パイプ・オルガン、エレクトリック・オルガン、ストリングス
音源	ステレオ・サンプリング音源
最大同時発音数	64音
効果	リバーブ(3段階)、プリリアンス(3段階)
キーボード・モード	シングル、レイヤー
音律	3種類 (平均律、キルンベルガー、ヴェルクマイスター)
タッチ・コントロール	3段階(ライト、ノーマル、ヘビー)
コントロール	[POWER]スイッチ、[ボリューム]ツマミ、[ピアノ1/ファンクション]スイッチ、[ピアノ・ソング]スイッチ、[メトロノーム]スイッチ
ペダル	ダンパー*、ソフト*、ソステヌート (*印: ハーフ・ペダル対応)
接続端子	ヘッドホン×2、OUTPUT(L/MONO、R)、MIDI(IN、OUT)
メイン・アンプ	15W×2
スピーカー	12cm×2
電源	AC100V 50Hz/60Hz
消費電力	40W
外形寸法(W×D×H)	1386×458×844(mm) (スタンド込みで、譜面立てをたたんだ状態)
重量(スタンド含)	40.5kg(スタンド込み)
付属品	専用スタンド、電源コード、ヘッドホン、高低自在椅子、楽譜集

※仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

・Sound Processed with INFINITY™

# スタンドの組み立て方法

## 警告

● 必ず2人以上で組み立ててください。

### 組み立て時の注意

正しく組み立てるために、以下の項目に注意して作業を行ってください。

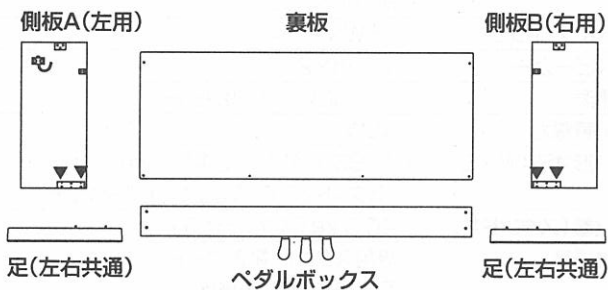
- ・ 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ デジタル・ピアノの本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

### 組み立て方法

お手持ちのプラスのドライバーを用意してください。

#### 1. 箱を開けて部品を取り出します。

下記の部品が揃っていることを確認してください。

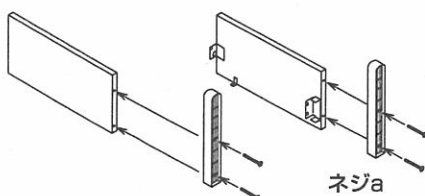


▼ : ペダルボックス取り付け用ネジ(M6×20) ×4本

ビニール袋詰め		
ネジa (M6 x 60) ...4本	ネジb (M4 x 14) ...6本	キャップ ...4個
コードホルダー ...2本	本体固定ネジ...2本	アジャスター ...1個

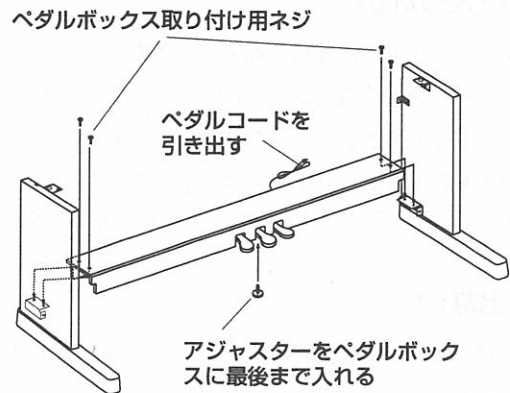
#### 2. ネジaで、側板AとBに足を取り付けます。

足の2つの突起部分を、側板の穴にそれぞれ合わせてください。



#### 3. 側板の金具に止めてある、ペダルボックス取り付け用ネジ4本を外します。

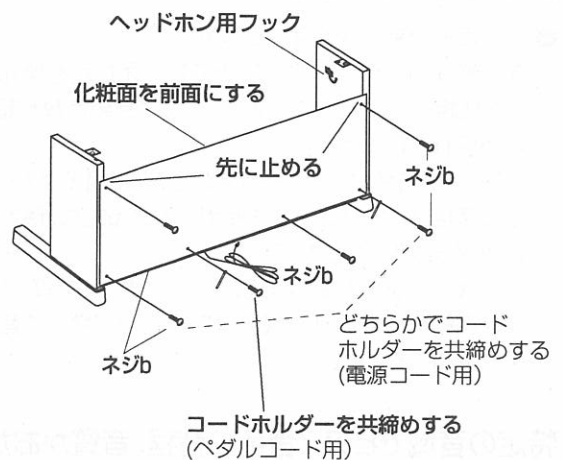
ペダルボックス取り付け用ネジで、2.で組んだ側板をペダルボックスに仮止めします。



#### 4. 6本のネジbで、裏板を取り付けます。

先に裏板の上側(2ヶ所)を止めます。

下側を止めるときは、2ヶ所でネジにコードホルダーを通し、スタンドに共締めします。右側または左側に共締めするかは、コンセントの位置を考えて決めてください。




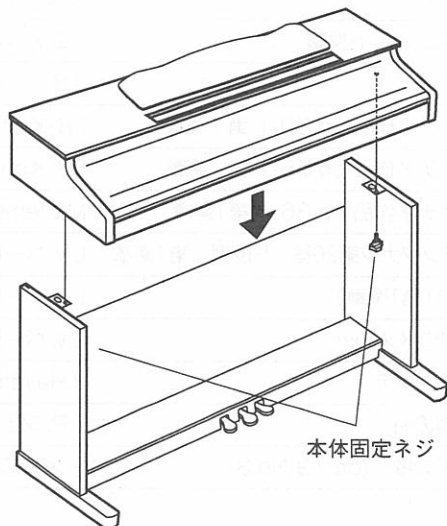
#### 5. スタンドに隙間やかたむきがないことを確認し、すべてのネジをしっかりと固定してください。

ペダルボックス取り付け用ネジのネジ頭にキャップをかぶせます。


## 7. 本体を取り付けます。

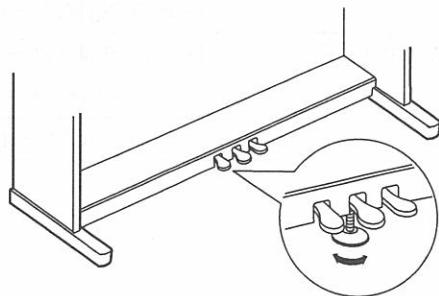
本体底面にあるプラスチック製の足を、側板の金具の穴に入るようにのせ、本体固定ネジで、下方から固定します。

 本体をスタンドにのせるときは、手を挟まないように、また下に落とさないように、ゆっくり行ってください。




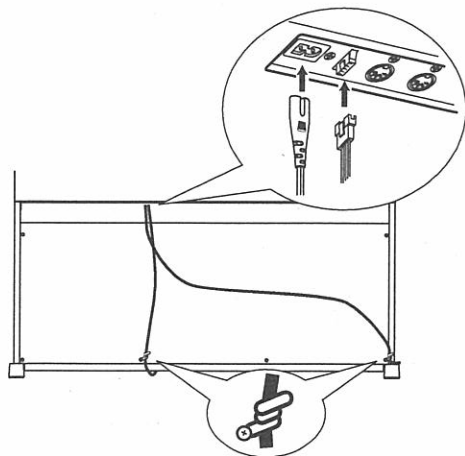
## 8. アジャスターを緩めて、アジャスターが床にしっかり当たるように調節します。

 アジャスターが床にしっかり当たらないと、ペダルがぐらつき故障の原因になります。



## 9. ペダルコードと電源コードを本体の底面に接続し、各コードをコードホルダーで固定します。

 ペダルコードの接続時は、コネクターの向きに注意してください。



## 組立後のチェック

- 部品は余っていませんか？  
余ったときは、図中の使用先の位置を確認してください。
- 各ネジが緩んでいないかを確認してください。

## その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

- **ネジの緩みについて**  
組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときはネジを締め直してください。
- **移動について**  
デジタル・ピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「取扱説明書」に従い、組み立て直してください。
- **分解について**  
スタンドを分解するときは、組立時の逆の順番で行ってください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

## ピアノ・ソング・リスト

### 名曲集1(楽譜付き)

No.曲名	作者
1 プレリユード(平均律第1巻 第1番より)	J.S.バッハ
2 インベンション 第1番	J.S.バッハ
3 主よ、人の望みの喜びよ	J.S.バッハ
4 ソナタK.545 第1楽章	W.A.モーツァルト
5 トルコ行進曲(ソナタ K.331より)	W.A.モーツァルト
6 エリーゼのために	L.v.ベートーヴェン
7 「悲愴」第2楽章	L.v.ベートーヴェン
8 乙女の祈り	T.パダジェフスカ
9 アラベスク Op.100-2(25練習曲より)	F.ブルグミュラー
10 スティリアの女 Op.100-14(25練習曲より)	F.ブルグミュラー
11 貴婦人の乗馬 Op.100-25(25練習曲より)	F.ブルグミュラー
12 春の歌 Op.62-6(無言歌集第6巻より)	F.メンデルスゾーン
13 トロイメライ Op.15-7	R.シューマン
14 荒野のばら	G.ランゲ
15 紡ぎ歌	A.エルメンライヒ
16 人形の夢と目覚め	T.オースティン
17 亜麻色の髪の乙女	C.ドビュッシー
18 アラベスク 第1番	C.ドビュッシー
19 プレリユード(ベルガマスク組曲より)	C.ドビュッシー
20 ゴリウオーグのケーキウォーク	C.ドビュッシー
21 月の光	C.ドビュッシー
22 ワルツ 第6番 変ニ長調「小犬」 Op.64-1	F.ショパン
23 ワルツ 第7番 ホ短調 Op.64-2	F.ショパン
24 ノクターン 第2番 Op.9-2	F.ショパン
25 マズルカ第5番 Op.7-1	F.ショパン
26 幻想即興曲 Op.66	F.ショパン
27 別れの曲 Op.10-3	F.ショパン
28 黒鍵のエチュード	F.ショパン
29 プロムナード(展覧会の絵より)	M.P.ムソルグスキー
30 ジムノペディ第1番	E.サティ
31 ジュ・トゥ・ヴ	E.サティ
32 愛の挨拶	E.エルガー

### 名曲集2

No. 曲名	作者
1 楽しき農夫	R.シューマン
2 すみれ	R.ストリーボック
3 メヌエット ト長調	J.S.バッハ
4 ガボット	J.S.バッハ
5 ソナチネ作品 op.20-1 第1楽章	FR. Kuhlau
6 ソナチネ作品 op.55-1 第1楽章	FR. Kuhlau
7 ソナチネ作品 op.36-1 第1楽章	M.Clementi
8 ピアノソナタ第20番 ト長調 第1楽章	L.v.ベートーヴェン
9 月光(第1楽章)	L.v.ベートーヴェン
10 ト調のメヌエット	L.v.ベートーヴェン
11 アンダンテ	J.Haydn
12 楽興の時	F.P.シューベルト
13 狩人の歌 (op.19-No.3)	F.メンデルスゾーン

### バイエル(全訳バイエルピアノ教則本)

No.	備考
1 thema, var.1~12	パート1に先生のパート パート2に生徒のパート(右手)
2 thema, var.1~8	パート1に生徒のパート(左手) パート2に先生のパート
3...106	生徒のパート(両手)



## ブルクミュラー(25の練習曲)

No. 曲名	作者
1 すなおな心	J.F.ブルクミュラー
2 アラベスク	J.F.ブルクミュラー
3 パストラル(牧歌)	J.F.ブルクミュラー
4 小さなつどい	J.F.ブルクミュラー
5 無邪気	J.F.ブルクミュラー
6 進歩	J.F.ブルクミュラー
7 清らかな小川	J.F.ブルクミュラー
8 優しく美しく	J.F.ブルクミュラー
9 狩(かり)	J.F.ブルクミュラー
10 やさしい花	J.F.ブルクミュラー
11 せきれい	J.F.ブルクミュラー
12 別れ	J.F.ブルクミュラー
13 コンソレーション(なぐさめ)	J.F.ブルクミュラー
14 シュタイヤー舞曲(アルプス地方の踊り)	J.F.ブルクミュラー
15 パラード	J.F.ブルクミュラー
16 ちょっとした悲しみ	J.F.ブルクミュラー
17 おしゃべりさん	J.F.ブルクミュラー
18 気がかり	J.F.ブルクミュラー
19 アヴェ・マリア	J.F.ブルクミュラー
20 タランテラ	J.F.ブルクミュラー
21 天使の合唱	J.F.ブルクミュラー
22 バルカロール(舟歌)	J.F.ブルクミュラー
23 再会	J.F.ブルクミュラー
24 つばめ	J.F.ブルクミュラー
25 乗馬	J.F.ブルクミュラー

**MeMO** 音色デモと同じ曲が、異なった曲名になっている部分がありますが、この一覧表では市販されている一般的な楽譜集の曲名に合わせています。

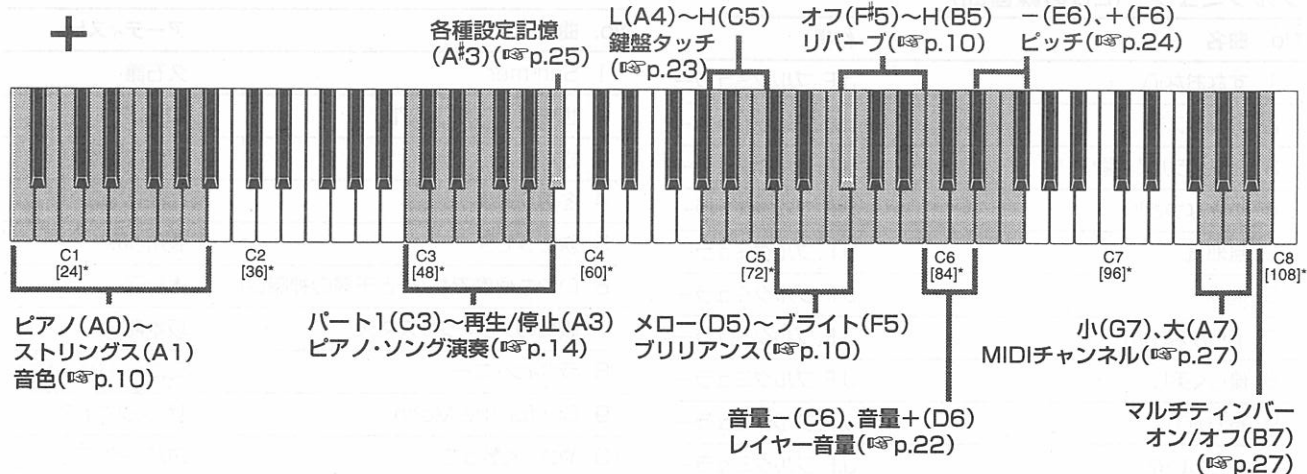
## ポップス

No. 曲名	アーティスト
1 Summer	久石譲
2 世界に一つだけの花	SMAP
3 さくら	森山直太郎
4 冬のソナタ	RYU
5 涙そうそう	夏川りみ
6 いつも何度でも(千と千尋の神隠し)	木村弓
7 戦場のメリークリスマス	坂本龍一
8 ラヴィン・ユー	ミニー・リパートン
9 Cry for the Moon	ザ・スクウェア
10 やさしく歌って	ロバータ・フラック
11 アメイジンググレイス	Traditional
12 This Masquerade	ラッセル・レオン
13 嵐が丘	ケイト・ブッシュ
14 わが心のジョージア	ホーギー・カーマイケル
15 スペイン	チック・コリア
16 エンターティナー	スコット・ジョプリン

# 鍵盤の機能一覧表

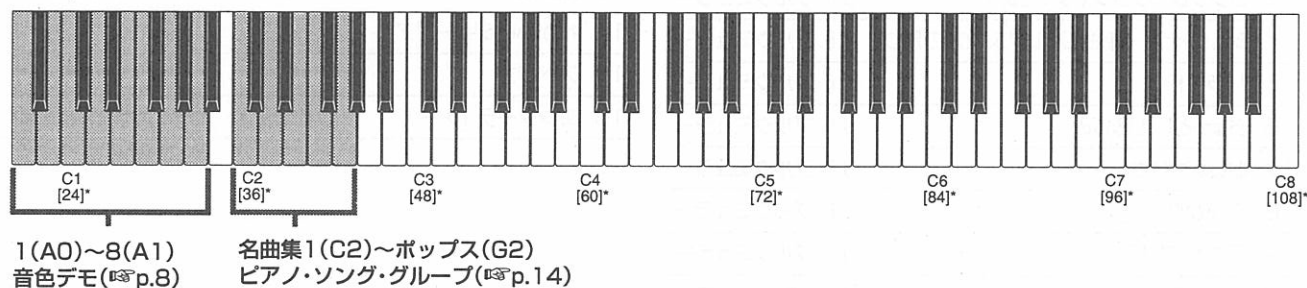
## [ファンクション]スイッチ

\* [ ] 内はMIDIノートNo.

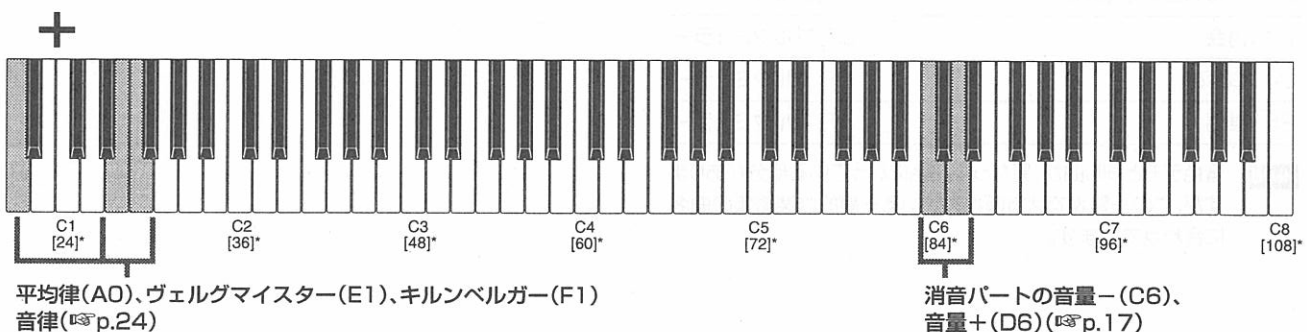


## [ファンクション]スイッチ

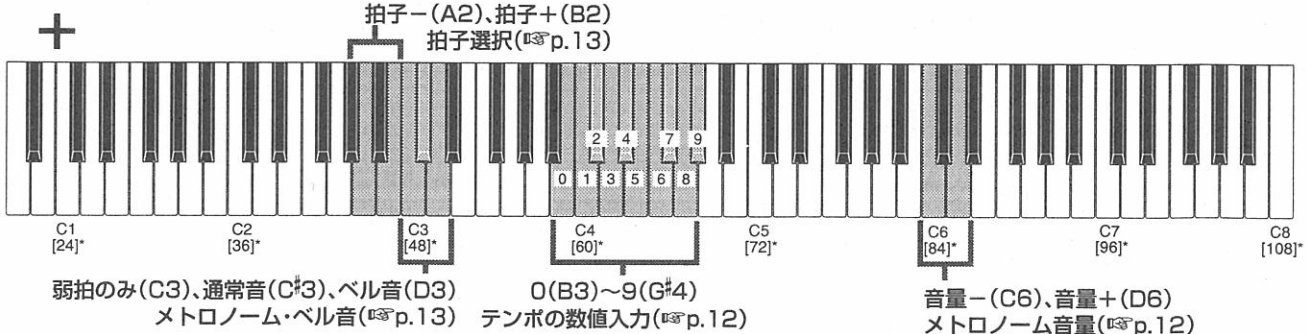
※ [ピアノ・ソング]スイッチ点灯時



## [ピアノ・ソング]スイッチ



## [メトロノーム]スイッチ



テンポの数値入力例---テンポを86にするには  
パネルの[メトロノーム]スイッチを押しながら  
鍵盤B3、G4、F4 (0、8、6)を順番に押します。

ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時 設定可能	1 1-16	1 1-16	
モード:	電源ON時 メッセージ 代用	× *****	3 ×	
ノート ナンバー:	音域	15-113 *****	0-127 21-108	
ベロシティ:	ノート・オン ノート・オフ	○9n, V=1-127 ×	○9n, V=1-127 ×	
アフタータッチ:	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー:		×	×	
	7 11	× ×	○ ○	ボリューム エクスプレッション
コントロール チェンジ:	64 66 67 91 120, 121	○ ○ ○ × ×	○ ○ ○ ○ ○	ダンパー・ペダル * ソステヌート・ペダル ソフト・ペダル * リバーブ・センド オールサウンド・オフ、リセット・オールコントロール
プログラム チェンジ:	設定可能範囲	0-35 *****	0-35 0-35	
エクスクルーシブ:		○	○	デバイス・インクワイアリ
コモン:	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム:	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他:	ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○123-127 ○ ×	
備考:	* ハーフダンパー出力値(0、38、74、127)			

モード1: オムニオン、ポリ  
モード3: オムニオフ、ポリ

モード2: オムニオン、モノ  
モード4: オムニオフ、モノ

○: あり  
×: なし

## アフターサービス

### ■ 保証書

本製品には、保証書が添付されています。  
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。  
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

### ■ 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

### ■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。  
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

### ■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

### ■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。  
それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

### ■ 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

### ■ ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。  
商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

### WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan.  
Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

## 株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 03(3799)9086

● サービス・センター: 〒143-0001 東京都大田区東海5-4-1

明正大井5号営業所コルグ物流センター内 TEL 03(3799)9085

**KORG** 株式会社コルグ

本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

URL: <http://www.korg.co.jp/>